

第5回「京都市 駅周辺等にふさわしい都市機能検討委員会」 会議録

日 時：令和4年7月15日（金） 午前10時00分～午前11時30分

場 所：職員会館かもがわ 3階 大多目的室

出席者：大庭 哲治 京都大学大学院准教授

塚口 博司 立命館大学名誉教授

辻田 素子 龍谷大学教授

中嶋 節子 京都大学大学院教授

中谷 真憲 京都産業大学教授

以上5名（五十音順、敬称略）

1 開会

2 委員紹介

——（事務局から委員の出席状況報告）——

3 会議の公開・非公開の決定

- ・議事について非公開に決定

4 議事

(1) 答申案について

——（事務局から資料1、2に基づき説明）——

○ 委員

ただ今の説明について、御意見、御質問を承る。

○ 委員

資料2の8ページ目の手法の検討の視点について、用途地域や高度地区を見直すことが目的かのような印象を受けるが、これが前面に出過ぎないようにした方がよい。本委員会では、創造ゾーンの活力をどう高めるかの議論をしてきた。都市計画の手法に限定されないような書き方がよい。

資料2の7ページ目の路地再生などの関係施策との連携については、この間の議論だけでは整理しきれない部分もあるため、答申に唐突な記載とないようにした方がよいのではないかと。

資料2の12～13ページ目の「京都駅南部」や「梅小路京都西駅周辺」における歴史的なものについての記載が、なお書きとなっており、取っつけたような感じになっているが、歴史的なものをもう少し大切に扱った

方が良い。歴史的なものがあることを前提にした書き方が良い。歴史的なものがあるエリアに、さらに活力を加えるためにどんなアイデアがあるのかを記載した方が良い。各エリアにとって大切な将来像として示すためにも、中盤に盛り込む方が方策との関係も分かりやすくなるのではないかな。

○ 委員

結論を先に示すなどの工夫をした方が良い。

答申案には、本委員会が都市計画マスタープランの見直しを受けて議論してきた結果として、用途地域や高さ規制の見直しが必要であることをしっかりと書くべきである。

竹田駅周辺については、まとまった未利用地が多くて勿体ない駅東側について議論した経過が丁寧に書かれているが、らくなん進都とのつながりに関することが書かれていない。都市計画マスタープランの地域まちづくり構想でも、商業・業務機能を集積するエリアとされているポテンシャルを発揮させるためにも、竹田駅周辺については、駅から南北に伸びる油小路通や、パルスプラザ周辺とのつながりも考慮した方が良いのではないかな。

○ 委員

他の答申文書と比較して特段読みにくいということはないが、意図をきちんと市民にも伝えなければならないという観点からすれば、冗長な書き方になっている箇所は整理した方が良い。

資料2の19ページ目には、京町家がクリエイティブな活動をする人の感性を刺激していることが書かれており、京町家を保全すべきであることを前提としていることがわかる。本委員会は確かに、用途地域や高度地区の見直しの議論だけをしてきたわけではない。しかしながら、都市格の向上により高まった熱をどう伸ばしていくかを議論してきた結果として、用途地域や高度地区等の見直しが必要であることは示すべきである。現に、京都駅南部の九条通以南エリアについては、具体的な容積率のデータを基に勿体ないことになっていることを確認し、若い人を受け止められていないことを議論してきたのだから。容積率の消化率が低くポテンシャルを十分発揮できていない状況が見受けられる中で、景観を守りつつ、若い世代に選ばれるようにしていくために、用途地域や高度地区の見直しが必要であると議論を重ねてきた。市民に何を議論してきた委員会なのかを伝えるためにも、このような具体策を示す必要がある。

京町家は保全しなければならない。保全しなければクリエイティブな活

動をする人も入ってこなくなる。若い人のクリエイティブな活動を受け止めるため、守るべき町家は絶対死守しなければならないが、逆に風情がなくなっている竹田街道においては、発展に向けた方策を書きおかないと、将来的に何もないことになってしまわないか。資料2の12ページ目の竹田街道などの旧街道沿道と記載しているが、一口に旧街道沿道として、何も対策を講じない対象が広がってしまうことは良くない。竹田街道の全てで何もしないというふうに想起させる表現は、今後、京都を創造する際のバリアーにならないかと強く懸念する。新しいものを入れていく考え方も大事ではないか。

○ 委員

答申を広く示すのであれば、要約したものがあるといいかもしれない。

資料1では、都市格の向上により高まった都心部の熱を受け止める新たな拠点の形成の対象エリアに、京都駅南部、梅小路京都西駅周辺、らくなん進都、竹田駅周辺が挙げられているが、この間しっかり議論した内容なので、資料2にも、らくなん進都、竹田駅周辺について十分記述した方がよい。らくなん進都や竹田駅周辺を対象エリアとすることについて、「広域拠点エリア」との近接性から導き出しているが、駅周辺の議論をしてきた経過を踏まえると、「地域中核拠点エリア」との関係性からも記載を充実すべきかどうか検討してほしい。

市境エリアは十分記載されており良い。周辺市町とも連携しながら進めていってほしい。

委員会名が「京都市 駅周辺等にふさわしい都市機能検討委員会」であるが、それが答申に反映できているか検討してほしい。この間、駅周辺について議論してきたことの重要性を示すためにも、本委員会の目的が、検討内容から出口まで一貫していることをしっかりと答申に示すことが大事である。

○ 委員

文章の構成やつながりを見直すなど、広く伝えるための工夫をした方がよい。

エリアごとに目指す姿を書くのも良いが、市域全体で目指すことをどのエリアで実現するのが最適かという流れで書く方がよい箇所もある。例えば、都市基盤の状況を踏まえ、物理的に大きな企業を受け入れやすいらくなん進都での方策の一例に挙げた本社オフィスの集積については、市域全体で本社機能を含むあらゆるオフィスの受け入れを目指すことを示したうえでの記載とした方がよいのではないか。特定の場所でしか実現できな

いように受け取られるのは勿体ない。

○ 委員

全体を通して、環境配慮に言及していない。環境はクリエイティブ層の感性に刺さるところが大きく、ソーシャルとエコとの親和性も高いので、環境配慮の必要性について記載を充実できれば良いのではないか。現代の時代背景を考えると当然意識すべきなので、答申に取り入れてほしい。

古いものを活かしながら、新しい風も呼び込んでいくために開発は必要である。例えば近年行われている、解体された建築物の廃材をファサードに利用し、木造のように見える大規模なソーシャル機能を持った複合ビルを建築するといった取組等は、先進的で参考になるだろう。古いものに新しい風を呼び込んでいくための開発も大事だが、どんどん新しいものを造るだけでは意味がない。むしろ、新しいものを造ることで、古いものを活かすといったソーシャルな取組につなげていくような「温故知新」の発想が大事。景観にも配慮して京都らしいイメージを活かしつつ、新しいことを行えると良いのではないか。

○ 委員

答申のどこにそのような記述をすべきか。

○ 委員

京町家にクリエイティブな活動をする人が入ってラボなどになることは大賛成であるが、それだけではいけない。京都らしいデザインイメージや景観に配慮した大規模な建物ができることで京都が刷新すると考えている。旧来のものを活かすだけでなく、新しいものを創ることがクリエイティブな活動を刺激することになるという内容を答申に入れた方が良い。

○ 委員

答申の構成を大きく変えない方向であれば、6ページの2（1）アで、大企業本社の集積や、クリエイティビティ、環境などのキーワードを全て記載するのが良いのではないか。2（1）イに、新たな拠点でそれらの課題を受け止めていくことを記載すれば良いのではないか。

○ 委員

資料2の11ページからエリアごとの検討内容が書かれているが、それぞれのエリアでどういう方向性を目指すのかをもう少し明確に書いてほしい。課題と見直し手法が一目で分かるようにした方が良い。歴史的なも

のや既存のものを活かしながら新しいものを入れていくために、用途地域や高度地区を見直すという流れにした方が良い。用途地域や高度地区を見直すことに反対するわけではないが、それ自体が目的のように見えるのはよくない。

○ 委員

エリアごとの書き方を統一してほしい。全て“・”で書かれていると、それぞれに何が書かれているのかが一目ではわかりにくい。

○ 委員

本委員会では、しっかりとしたエビデンスで議論してきた。そのため、何のデータに基づいて検討したのかが分かるようにしてほしい。

○ 委員

差障りのない範囲で、根拠となる資料をいくつか公開することはできないか。

○ 委員

答申のベースとなる参考資料を答申に添付することはできるのか。

○ 事務局

公開できるものは全て公開する予定だが、ほとんどのデータが固定資産税台帳のデータであるため公開が難しい。ただ、データそのものではなくても、可能な限りこういったデータを用いたのかを示したい。

○ 委員

都市計画変更のパブリックコメントは文章だけでは分かりにくい。

○ 事務局

パブリックコメントの際は、どこでどんな方策を講じるのかについて、都市計画の形にしたうえで分かりやすく示したい。

○ 委員

全ての根拠資料を公開することは難しいが、できる限り公開する方向で進めてほしい。

○ 委員

ビジョンを実現するためには、都市計画だけに閉じた議論では良くないので、様々な施策連携と役割分担の下で進めていく必要性についても記載しておいてはどうか。

○ 委員

タイトルに副題を付け加えることはできないのか。本委員会で議論した内容は駅周辺のことだけではない。駅周辺のことだけにとどまらない議論をしてきた本委員会の趣旨が少しでも伝わるよう、記載内容の充実や、副題を付すなど、検討してほしい。答申案はブラッシュアップできる余地がある。

○ 委員

概要版を作成すると概要版しか読まれない可能性もある。しっかり内容を理解してもらうためには作成しない方が良い場合もある。

○ 委員

次回までに今回の議論を踏まえ答申案の修正が必要である。
以上、御意見も出尽くしたので、最後に事務局から一言頂きたい。

○ 事務局

都市計画マスタープランでは、方面別指針を掲げ、日常生活の求心力となる地域中核拠点エリアごとの将来像をできるだけ細かく示してきた。本委員会では、その方面別の将来像を実現するための都市計画手法について主に議論していただいたが、本日は、その議論の意図を分かりやすく示していくことが大事だといった御意見も頂戴した。今後の答申の取りまとめに当たっては、御議論いただいた様々な手法を用いながら、どのようなまちづくりを目指すのかを分かりやすく示すことが重要であると認識した。

5 閉会

○ 事務局

———今後のスケジュールについて説明後、会議終了———

(了)